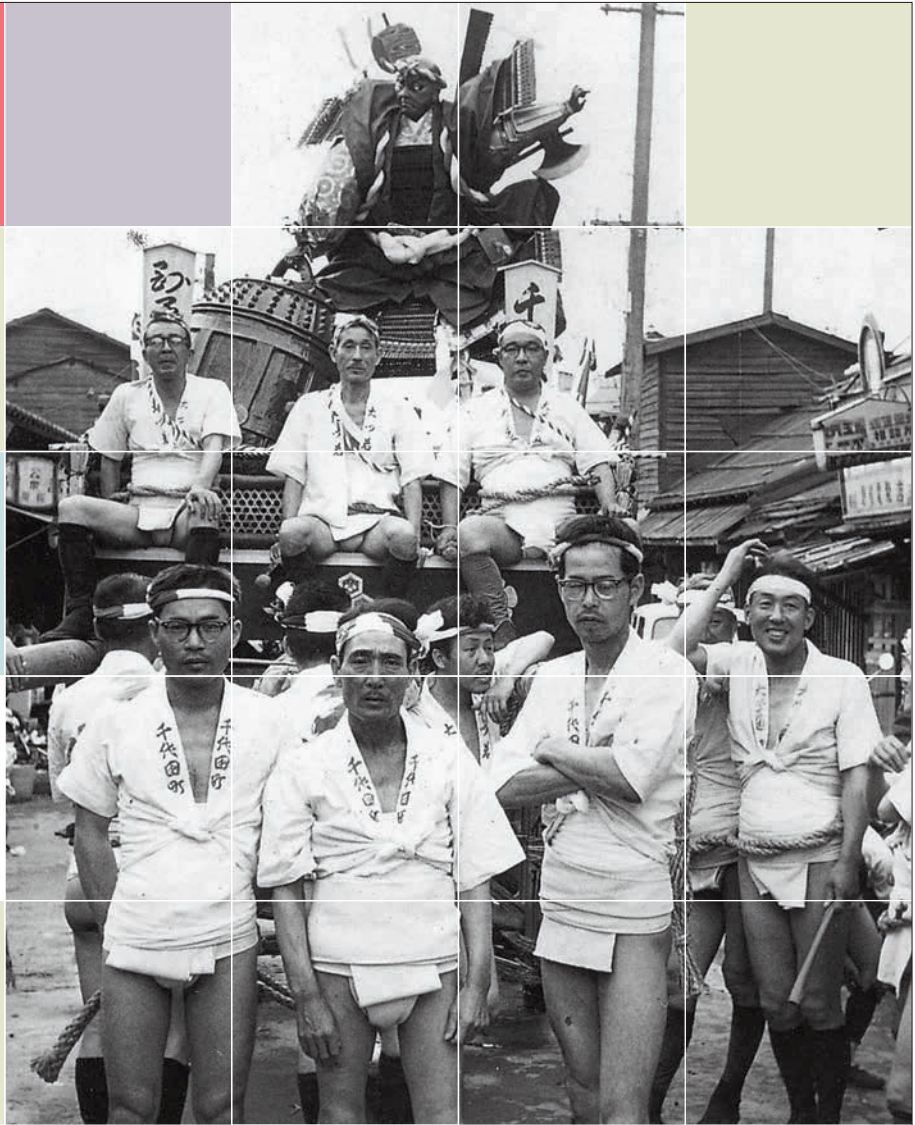


特集

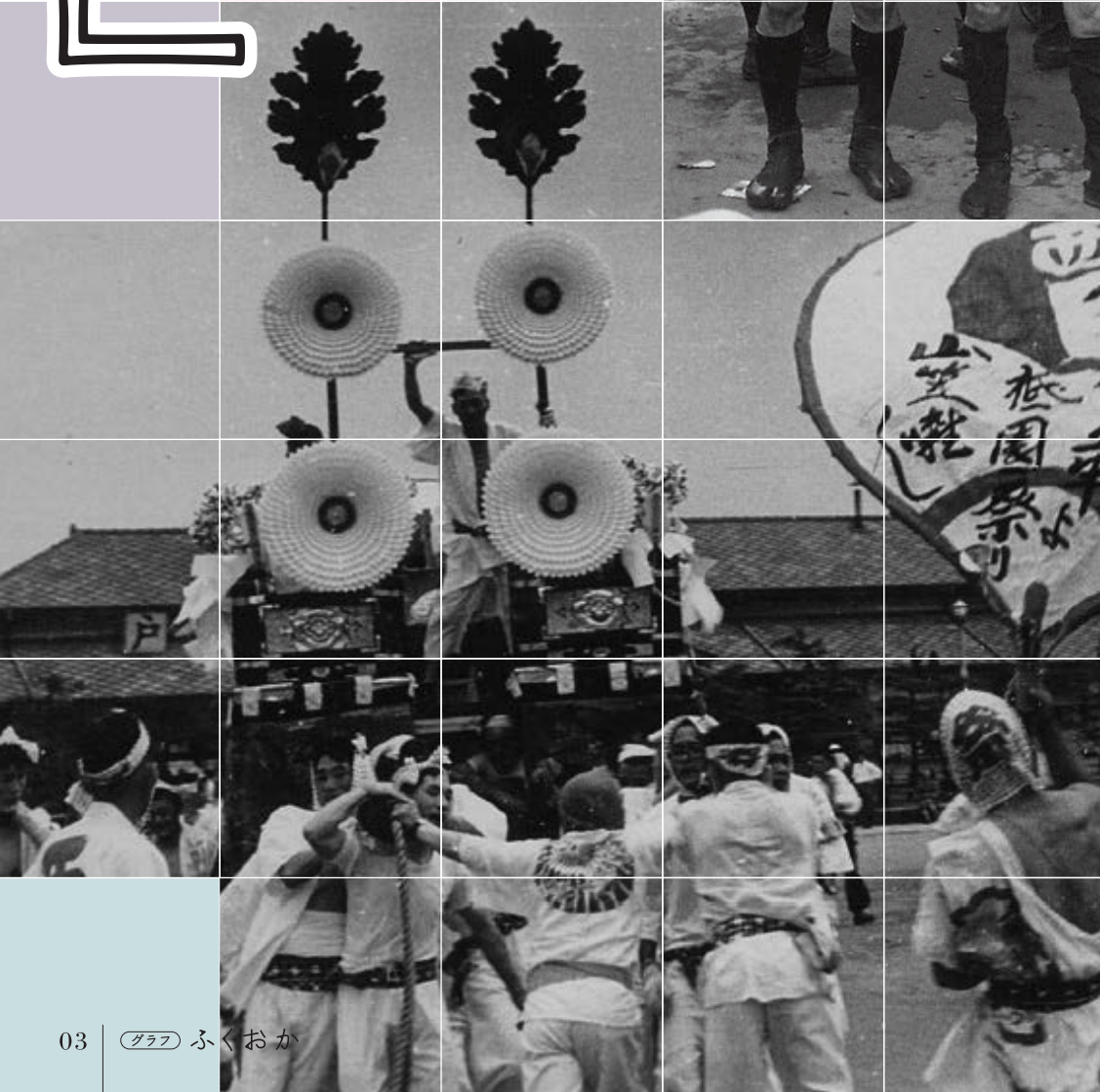
受け継がれてきた

『山・鉾・屋台行事』



祝！ユネスコ無形文化遺産登録

福岡県には、地域で大切に継承されてきた祭りが数多くあります。昨年、ユネスコ無形文化遺産に登録された「博多祇園山笠行事・戸畑祇園大山笠行事」は、人々の交流と絆を深め、地域の維持に貢献していることが高く評価されました。世代を超えて受け継がれる魅力とは何か。それぞれの祭りに携わる方々の思いを通してご紹介します。



受け継がれてきた
『山・鉦・屋台行事』

「今の、そして先の世代の子どもたちが大山笠を見て成長し、自分も参加したいと自然に感じてもらうことが大切」と後藤さん。数世代にわたり参加してきた林清助さんも「時代が変わっても、地域みんなで伝統や絆を守り継いできた。それがユネスコ無形文化遺産登録につながったと思う」と話します。

地域に活気と
感動をもたらす
博多っ子の「意気」。

聖

「一國師が、1241年疫病退散を祈願したことが起源とされる博多祇園山笠。7月になると福岡市内各所に公開される優美な「飾り山笠」と、「昇き山笠」を担ぐ博多の男たちの躍動する姿で、博多の街は祭一色となり「活気」に満ちあふれます。博多祇園山笠振興会・豊田侃也会長は博多祇園山笠行事が受け継がれる理由を全員の心が一つになる「息が合う」と気概の「意気」という言葉で表現します。「昇き棒」は表は少し高く、見送りは少し低くなっているため、背丈や筋力が違っても「昇き手」は自分に合った位置で力を発揮できる。それが皆で息を合わせ無事に回り止めを駆け抜けた瞬間の喜びにつながるんです」。

昇き山を釘一本使わず組み上げる技を継承する山大工、博多祇園山笠振興会・名越正志副会長も、今回の登録決定を受けたときの心境を、「長老から子ども、女性たちまで、地域が一丸となって先達から守り継いできた伝統を次世代に受け継ぎたい」という思いを強くしたと振り返ります。

これからも世界が認めた博多っ子の粋な心意気で人々に感動を与え、熱く走り続けます。

次世代へ
守り受け継ぐ
伝統の心と技。

戸

畑の夏を彩る戸畑祇園大山笠。昼に12本の大旗を立て練り歩く「幟大山笠」が、夜には「提灯大山笠」へと姿を変える全国でも珍しい祭りです。戸畑祇園大山笠振興会の後藤雅秀会長は「幟大山笠の飾り物を外した台座に309個の提灯が一気に組み上がる様子は他の祭りにはない見どころの一つ」と話します。

武者絵などの刺繍を施した絢爛豪華な幕類は、幟大山笠全体に典雅な雰囲気を感じます。また、笛、鉦、太鼓、銅拍子などを使って演奏される「戸畑祇園囃子」も、次の世代へ大切に受け継がれています。行事の一週間前には「戸畑祇園ばやし研究競演会」が開催され、地域の年配者から指導を受けた小学生がお囃子を披露します。



博多祇園山笠行事
戸畑祇園
大山笠行事

200余年の歴史を持つ北九州市戸畑区の伝統行事。祭りの期間は毎年7月第4土曜日を中日とする3日間で、中日に開催される大山笠競演会では4つの大山笠(東、西、中原、天籟寺)が一堂に会する

祭りのクライマックスでもある7月15日早朝の追い山では昇き山が、次々と博多の街を疾走。走る飾り山と呼ばれる上川端流でフィナーレを迎える

お話を伺った方々



菅原神社天籟寺大山笠宿
総代会長
林清助さん

「地元の人と新しく地域に仲間入りした人の絆を深める役割も担ってきた」という大山笠。世界に注目される祭りになることを願って、「ぜひ多くの人に見に来てほしい」と林清助さん



戸畑祇園大山笠振興会
会長
後藤雅秀さん

「今回の登録は先人たちの努力のおかげ」と後藤雅秀さん。「戸畑の誇りとして後々の世代まで引き継いでいくとともに、提灯の明かりが北九州を明るく照らし、市の活性化にもつながれば」と話す

お話を伺った方々



博多祇園山笠振興会 副会長
山大工
名越正志さん

「山があるから、今の自分がある」と、名越正志さん。「昇き手の疾走が『動』の魅力とすれば、人形師や山大工といった匠の技が結集した山は『静』の魅力。じっくり鑑賞してほしい」



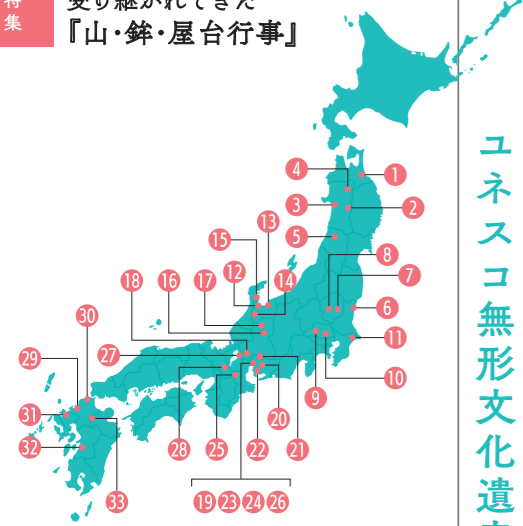
博多祇園山笠振興会
会長
豊田侃也さん

豊田侃也さんが、1950年発足の千代流に参加したのは5歳のとき。無形文化遺産登録の知らせを受けたときは「追い山の一番太鼓を耳にしたときと同じくらの凜とした心持ちだった」



宮崎宮参道先にある箱崎浜で7月1日は当番町のみが、9日は全流が行う清めの神事「お汐取り」

受け継がれてきた
『山・鉾・屋台行事』



ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」全国分布図

- 1 八戸三社大祭の山車行事
／青森県 八戸市
- 2 角館祭りのやま行事／秋田県 仙北市
- 3 土崎神明社祭の曳山行事
／秋田県 秋田市
- 4 花輪祭の屋台行事／秋田県 鹿角市
- 5 新庄まつりの山車行事
／山形県 新庄市
- 6 日立風流物／茨城県 日立市
- 7 烏山の山あげ行事
／栃木県 那須烏山市
- 8 鹿沼今宮神社祭の屋台行事
／栃木県 鹿沼市
- 9 秩父祭の屋台行事と神楽
／埼玉県 秩父市
- 10 川越氷川祭の山車行事
／埼玉県 川越市
- 11 佐原の山車行事／千葉県 香取市
- 12 高岡御車山祭の御車山行事
／富山県 高岡市
- 13 魚津のタテモン行事
／富山県 魚津市
- 14 城端神明宮祭の曳山行事
／富山県 南砺市
- 15 青柏祭の曳山行事／石川県 七尾市
- 16 高山祭の屋台行事／岐阜県 高山市
- 17 古川祭の起し太鼓・屋台行事
／岐阜県 飛騨市
- 18 大垣祭の軸行事／岐阜県 大垣市
- 19 尾張津島天王祭の車楽舟行事
／愛知県 津島市・愛西市
- 20 知立の山車文楽とからくり
／愛知県 知立市
- 21 犬山祭の車山行事／愛知県 犬山市
- 22 亀崎潮干祭の山車行事
／愛知県 半田市
- 23 須成祭の車楽船行事と神護流し
／愛知県 蟹江町
- 24 鳥出神社の鯨船行事
／三重県 四日市市
- 25 上野天神祭のダンジリ行事
／三重県 伊賀市
- 26 桑名石取祭の祭車行事／三重県 桑名市
- 27 長浜曳山祭の曳山行事
／滋賀県 長浜市
- 28 京都祇園祭の山鉾行事／京都府 京都市
- 29 博多祇園山笠行事／福岡県 福岡市
- 30 戸畑祇園大山笠行事／福岡県 北九州市
- 31 唐津くんちの曳山行事／佐賀県 唐津市
- 32 八代妙見祭の神幸行事／熊本県 八代市
- 33 日田祇園の曳山行事／大分県 日田市

けんちょう
建長6(1254)年、この地域に流行った悪疫が平癒したお礼として行われるようになったとされています。現在は今井西町の曳山1基のみですが、巡行に際して連歌が奉納されることが特徴的です。



所在地：行橋市
実施日：7月中旬～8月初旬
保護団体：今井西祇園会

D
今井祇園行事

うはら
宇原神社の神幸行事の一環とされており、室町時代には既に行われていたといわれます。山笠が激しくぶつかり合う「喧嘩山笠」としても知られます。期間中、山の姿が「灯山」、「幟山」、「岩山」と三変化します。



所在地：京都府 苅田町
実施日：9月下旬～10月初旬
保護団体：苅田山笠保存振興会

E
苅田山笠

江戸時代中期に現在の姿になっていたと考えられ、2基の曳山と6基の昇山が巡行します。中央に大ダシ・小ダシと呼ばれる15～20メートルほどの柱を立て、鳥毛や御幣を取り付けて依代としています。



所在地：京都府 みやこ町
実施日：5月第2日曜日を最終日とする3日間
保護団体：生立八幡宮山笠保存会

F
生立八幡神社山笠

約400年の歴史を持つといわれ、春日神社、岡田神社、一宮神社の御神幸として行われます。お汐井取りは台座に筐を載せた笹山笠で巡行し、その後、華やかな人形飾笠に衣更えします。



所在地：北九州市八幡西区
実施日：7月第4金曜日を初日とする4日間
保護団体：黒崎祇園山笠保存会

A
黒崎祇園行事

えいろく
永禄年間(1558～1570年)に、地域で流行った悪疫が平癒したお礼として山笠を奉納したのが始まりといわれます。五色のパレンで飾り立てた幟山笠が、彦山川を渡って御旅所に向かいます。福岡県五大祭のひとつ。



所在地：田川市
実施日：5月第3土曜日を初日とする2日間
保護団体：川渡り神幸祭山笠保存会

B
風治八幡神社川渡り行事

ぶんせい
文政9(1826)年、三柱神社の御遷座祭を祝うために奉納されたのが始まりとされます。江戸の神田ばやし、京都祇園の山鉾を参考にしたといわれ、山車の上で舞と囃子を披露しながら練り歩きます。



所在地：柳川市
実施日：10月第2土曜日を初日とする3日間
保護団体：柳川どろつくどん保存会

C
どろつくどん

福岡県の山・鉾・屋台行事

その他にも県内には伝統的な祭が行われています。こちらではその一部をご紹介します。

